

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)H'OT天神中洲新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.6
Q1 室内環境									3.6
1 音環境				3.5	0.15	-	-		3.5
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音		T-2以上		4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		-		5.0	0.65	-	-		
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.35	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		集会所でタイルカーペットを使用		3.1	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.5	0.35	-	-		3.5
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		外皮性能に配慮		3.7	0.24	-	-		
3 ゾーン別制御性		事務所は冷暖同時・細かな空調ゾーニングを採用		4.9	0.37	-	-		
2.2 湿度制御		事務所で加湿器を採用		3.4	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				4.0	0.25	-	-		4.0
3.1 昼光利用				4.1	0.35	-	-		
1 昼光率		昼光率に配慮		5.0	0.56	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.44	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.24	-	-		
1 昼光制御		-		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		500lxを確保		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		自動照明制御を採用		5.0	0.26	-	-		
4 空気質環境				3.4	0.25	-	-		3.4
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		天井裏も含めてF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				2.8	0.30	-	-		
1 換気量		事務所35m ³ /h以上の換気量を確保		4.6	0.34	-	-		
2 自然換気性能		-		3.0	0.31	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.34	-	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		-		3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.4
1 機能性				3.3	0.40	-	-		3.3
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		-		1.0	0.27	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		2.0	0.27	-	-		
3 バリアフリー計画		事務所エリアは円滑誘導基準を満たす		4.6	0.46	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.7	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		-		3.0	0.30	-	-		
2 リフレッシュスペース		共用部にドリンクサービス		5.0	0.27	-	-		
3 内装計画		コンセプトに沿った内装計画		3.4	0.43	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		トイレの壁床は防汚性に配慮		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.7	0.30	-	-		3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		25%増の耐震性を確保		4.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		押出成形セメント板を採用		5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにガルバニウム鋼板を採用		5.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:硬質塩ビライニング鋼管、排水:耐火二層管、冷媒:鋼管		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		熱源種の分散化		4.1	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		中水を引き込んでいる		4.1	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA以上を確保		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性				3.2	0.30	-	-		3.2
3.1 空間のゆとり				3.0	0.30	-	-		
1 階高のゆとり		-		2.2	0.53	-	-		
2 空間の形状・自由さ		空間の形状自由さに配慮		4.0	0.47	-	-		
3.2 荷重のゆとり		飲食エリアは積載荷重に配慮		3.1	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-		
1 空調配管の更新性		-		3.0	0.20	-	-		

	2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-
	3	電気配線の更新性	OAフロアの採用	5.0	0.10	-	-	-
	4	通信配線の更新性	OAフロアの採用	5.0	0.10	-	-	-
	5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出				-	3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				歴史の継承に配慮した外観計画	5.0	0.40	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域の映画劇場文化の再生	4.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				外皮性能に配慮	4.3	0.20	-	4.3
2 自然エネルギー利用				-	3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化				省エネルギー性に配慮	3.1	0.50	-	3.1
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-
	4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	-
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング	-	3.0	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制	-	3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護				3.5	0.20	-	-	3.5
	1.1 節水			省水型機器の採用	4.0	0.40	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無	中水を引き込んでいる	4.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				4.4	0.60	-	-	4.4
	2.1 材料使用量の削減			BCP材の採用	5.0	0.10	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.20	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			構造部に高規格電炉材を採用	5.0	0.20	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			エコマーク製品等の採用	5.0	0.20	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	3.0	0.10	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			再利用可能ユニット部材の採用	5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			対象物質を含まない塗装材の採用	4.0	0.30	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	-
	1	消火剤	不活性ガス消火の採用	4.0	0.33	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)	GWPの低い断熱材を採用	4.0	0.33	-	-	-
	3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出量に配慮	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	-
	1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	-
	2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-
	3	交通負荷抑制	荷捌き駐車場の確保	4.0	0.25	-	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
	1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	-
	2	振動	-	-	-	-	-	-
	3	悪臭	-	-	-	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
	1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-
	3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物は内照型を採用	5.0	0.70	-	-	-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0	-	○	○	-	-	○	○	-	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	5.0	-	2.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	-	-	1.0	-	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	-	-	-	-

LR1 エネルギー													
2	自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル													
1.2.2	雑排水等再利用システム導入の有無				○								
2.1	材料使用量の削減	5.0	-	-	5.0								
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	-	-	1.0							
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	○	-	○	-							
3.1	有害物質を含まない材料の使用	1.0											
LR3 敷地外環境													
2.2	温熱環境悪化の改善	6.0	1.0	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-		
2.3.3	交通負荷抑制	3.0	1.0	-	1.0	1.0	-	-					
2.3.4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-					
3.2.2	砂塵の抑制	-	-	-									
3.3.1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	2.0	2.0									

主な指標													
Q1 室内環境													
2.1.3	外皮性能	窓システムSC 0.3 窓の日射熱取得率(η) 0.3 U値(W/m2K) 窓システム 2.9 屋根 0.6 外壁 0.8 床 0.7 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH - 屋光率 8.2% 自然換気有効開口面積率 0.0%											
3.1.1	屋光率	屋光率 8.2%											
4.2.2	自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%											
Q2 サービス性能													
1.1.1	広さ・収納性	執務スペース 5.0㎡/人 病床 - /床 シングル - ツイン -											
1.1.2	高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/㎡											
1.2.1	広さ感・景観	天井高 2.6 m											
1.2.2	リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 9.0% レストスペース -											
2.2.1	躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年											
2.2.2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 35 年											
2.2.3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 10 年											
2.2.6	主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年											
3.1.1	階高のゆとり	階高 3.45 m											
3.1.2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 25.0%											
3.2	荷重のゆとり	床荷重 2900 N/m2											
Q3 室外環境(敷地内)													
1	生物資源の保全と創出	外構緑化指数 19% 建物緑化指数 3%											
3.2	敷地内温熱環境の向上	空地率 17% 水平投影面積率 16% 地表面対策面積率 4% 舗装面積率 11%											
LR1 エネルギー													
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.87 断熱等性能等級 0 相当											
2	自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -											
3	設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.79 住宅 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -											
LR2 資源・マテリアル													
1.2.1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%											
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 ビニル系床材 エコマーク商品 ビニル床材、フリ-自治体指定の特定品目等 -											
2.5	持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%											
3.2.1	消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 0											
3.2.2	発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3											
3.2.3	冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) -											
LR3 敷地外環境													
2.2	温熱環境悪化の改善	見付面積比 129% 隣棟間隔指標Rw 0.02 地表面対策面積率 5.9% 屋根面対策面積率 3.6% 外壁面対策面積率 0.1% 見付面積Sb 2.029㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 55.588 m 基準高さHb 40.4 m 緑地 37㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡											